

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			タッチセラピー等で落ち着いた療育ができるよう個室を設け、有効活用できている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			個別療育のほか室内運動を主とした小集団活動に注力。職員がチームで指導に当たっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		室内はバリアフリーだが、玄関やトイレにわずかな段差あり。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			他教室と日々の振り返りを共有。PDCA有効活用のための勉強会も実施。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		付き添いで来所した際や送迎時に、保護者へヒアリングして意向の把握に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			結果だけでなく、改善案や将来のビジョンまで公表することを心掛けている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	連携機関から総合的な評価をいただく機会はあるが、今後は教室ごとに細かく評価していただく機会を設けたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			積極的に県内外の研修会へ参加。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			計画に客観性を持たせられるよう、新形町教室だけでなく、高坂や桜新町担当者と必ず意見交換を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			利用者1人1人の特性把握や能力に関する情報を得るために有効活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			教室内チームのほか、高坂や桜新町とも連携。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			PDCAを繰り返し、ブラッシュアップを図っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			土曜日預かりの需要が高まっているため、こうしたニーズに柔軟に対応。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			小集団活動時においても、各自の特性や個性に寄り添ったサービスを実行している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			教室内だけではなく、全事業所で共有し、確認漏れを防いでいる。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			口頭での打ち合わせだけでなく、記録に残し、正確に共有を徹底。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			各自の様式に則って、正確な記述を行っている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的なモニタリングのほか、必要があればその都度連携を取り、不定期でも開催している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			複数のガイドラインの主要ポイントを反映しながら、日々の支援に当たっている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			毎日、役員と担当者がペアになり、少なくとも2人以上の職員で参画。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			大きな問題に発展する前に、小さな変化も共有できる関係性を構築している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		現在、必要な子はいないが、各医療機関主治医との連携は取れている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			複数の保育所・幼稚園等との情報交換の日程調整は容易でないが、相互理解には欠かせないことと考え、きちんと実施している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	まだ実績はないが、将来的に就労支援事業所を設置したいと考えている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			酒田市はまなし学園、鶴岡市障害者相談支援センター等と意見交換している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	近隣に小・中・高・大学があり、交流の機会や職場体験の受け入れを検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	協議会と連携する機会はまだ少ないが、研修棟には積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			お子さまとのコミュニケーションと同じく、保護者とも何でも話せる信頼関係構築のために尽力している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			困りごと相談のほか、家庭内で取り組める療育の指導、子育てアドバイスをやっている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			パンフレットやホームページ等で、詳細を公開している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			父母どちらかに一方的に肩入れすることのないよう、総合的な情報をもとに、客観的な視点で提言している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者同士の情報交換会、交流会の回数をもっと増やし、さらなる懇親の場を創出したい。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			担当職員レベルではなく、すべての苦情について全事業所で共有し、改善及び再発防止に努めている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○		発信時、個人情報にも十分配慮している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			警備会社とも契約し、厳重に関している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもとの意思疎通する機会は持てているが、保護者ともヒアリングの機会をさらに増やしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	地域住民の積極的な介入はリスクも伴うため、メリット・デメリットを十分見極め対応したい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		防犯マニュアル等の全公開は難しいが、公開できる範囲できちんと説明責任を果たしたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			月に一度、定期的に防災訓練を実施している。
非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止の講習会へ積極的に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		様々なケースや時代背景に沿ったガイドラインを策定できるようPDCAを繰り返している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			日々のおやつ等は、家族からの申し出や医師からの指示書をもとに個別に対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			気付いた時点ですぐに記録し「ヒヤリ」を繰り返さないよう、些細な事例でも全事業所で共有。